

いちかわ生物多様性通信

【水生生物の調査を行いました】

いちかわ生きものマップの調査では、生物多様性の変化をモニタリングするため、29種の指標となる生物を選定し、調査員の皆様に情報を提供していただいています。しかし、魚やヤゴなどの水の中の生き物は、専門機関でないと調査が難しいことから指標生物には入っていません。そこで生物多様性モニタリングの一環として、今年度は、真間川水系の水生生物を調査することにしました。調査は年2回、春と秋に行う予定です。

5月に春季の調査を実施しましたので、調査員の皆様に調査結果の概要について、お知らせします。

・多数のアユが採取できました



・こんな生きもの（絶滅危惧種）も見つかりました



魚類は6目8科16種、ヤゴや貝などの底生生物は4門6綱17目29科64種が確認されました。特に際立ったのがアユです。平成22年の同時期の調査では、稚魚が2個体採取されただけでしたが、今回は、成育状態の良い56個体のアユを採取することができました。一方、外来種のアメリカザリガニは意外に少なく、17個体が採取されただけでした。

今年は全国的に天然アユの遡上が良好とのことですが、水質の改善や護岸の整備などにより、真間川水系の生物多様性が豊かになったことを表しているのかもしれませんが。

【指標生物について】

水生生物調査では、アユの個体数や成育状態の変化が顕著でしたが、モニタリング調査は、同じ種の生物の生息・生育状況を継続的に調べ、変化を捉えていくことを目的にしています。そのため、いちかわ生きものマップの調査では、環境の指標となる生物を29種選定して調査員の皆様に情報の提供（投稿）をお願いしています。

〇いちかわ生きものマップ指標生物一覧

分類	No	種名	選定した理由
植物	1	ソメイヨシノ(開花)	開花・季節により、気象変化の指標
	2	キンラン	コナラやクヌギの二次林に生育する里山の環境指標
	3	ヤマユリ	コナラやクヌギの二次林に生育する里山の環境指標
	4	カラスウリ	林縁に育つツル性植物、市街地の環境指標
	5	セイタカアワダチソウ	外来種でかつて猛威を振るったが衰退の傾向
	6	ヒガンバナ(開花)	開花・季節により、気象変化の指標
哺乳類	7	アブラコウモリ	身近な野生哺乳類、蚊などを食べる益獣
ハ虫類	8	ニホンヤモリ	市街地の環境指標 夜行性、昆虫などを捕食
	9	ニホンカナヘビ	市街地の環境指標、個体数減少傾向か
	10	ヒガシニホントカゲ	市街地の環境指標、個体数減少傾向か
両性類	11	アズマヒキガエル	水辺の環境指標、成体は水域から離れる
	12	ニホンアカガエル	水辺の環境指標、谷津田の減少と共に激減
鳥類	13	メジロ	緑の多い環境を好む里山のシンボル
	14	ウグイス	ブッシュ的な環境を好む里山のシンボル
	15	ツバメ	草地や水辺など開けた環境を好み人工物に営巣
	16	ヒバリ	まとまった草地や裸地を好む草地のシンボル
	17	コゲラ	樹林地の環境のシンボル、最近では市街地の近くにも
	18	カワセミ	水生生物をエサとする水辺の環境指標
	19	シラサギ類	水生生物をエサとする水辺の環境指標
	20	モズ	昆虫や両生類・爬虫類など多様なエサを採取
昆虫	21	ナガサキアゲハ	生息域が北上中の南方系の種、気候変動の指標
	22	オニヤンマ	安定した流水と砂泥がある水路と林や藪の環境
	23	ミンミンゼミ	幼虫は比較的乾いた土中を好む、乾燥化の指標
	24	クマゼミ	生息域が北上中の南方系の種、気候変動の指標
	25	トノサマバッタ	低層の草地に生息する草地の環境指標
	26	アカトンボ類	赤いトンボの総称、産卵場所は田んぼなど
	27	オオカマキリ	エサとなる昆虫類の生息が必要な草地の環境指標
	28	ミノムシ類	幼虫期ミノをつくる蛾の総称、大型のオオミノガは激減
クモ類	29	ジョロウグモ	エサとなる昆虫類の生息が必要な林縁部の環境指標
その他			指標種以外で眼についた生きもの、希少種など

生物多様性をモニタリングするためには、一定の指標となる生物の情報を継続的に収集していくことが大切ですが、なるべく沢山の情報があるほど、地域の生物多様性の姿が見えてきます。

調査員の皆様の投稿をお待ちしております。

発行：市川市（自然環境課）

電話：047-712-6307

Fax：047-712-6364